

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 APR 19 1999
Date of Application: 1998年 3月23日

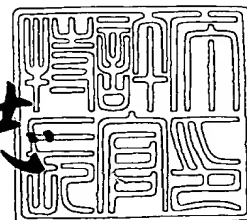
出 願 番 号
Application Number: 平成10年特許願第074076号

出 願 人
Applicant (s): ユニ・チャーム株式会社

1999年 3月12日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

伴佐山 建志



出証番号 出証特平11-3014750

【書類名】 特許願

【整理番号】 981040UC

【提出日】 平成10年 3月23日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A61F 5/44

【発明の名称】 尿取りパッド

【請求項の数】 7

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・
チャーム株式会社開発本部内

【氏名】 藤岡 義久

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・
チャーム株式会社開発本部内

【氏名】 野崎 哲

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・
チャーム株式会社開発本部内

【氏名】 和田 一郎

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・
チャーム株式会社開発本部内

【氏名】 前野 隆

【特許出願人】

【識別番号】 000115108

【氏名又は名称】 ユニ・チャーム株式会社

【代表者】 高原 慶一郎

【代理人】

【識別番号】 100085453

【弁理士】

【氏名又は名称】 野▲崎▼ 照夫

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 041070

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9708172

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明 細 書

【発明の名称】 尿取りパッド

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内面側に液透過性のトップシートが、内部に前記トップシートを透過した液を吸収する吸収コアが設けられ、外面側には前記吸収コアを通過した液を透過する液透過領域が少なくとも部分的に形成されていることを特徴とする尿取りパッド。

【請求項 2】 外面側がおむつの表面に向けられて展開した状態でおむつの内側に設置されて使用される請求項 1 記載の尿取りパッド。

【請求項 3】 内面側がペニスに向けられた状態でペニスを収納する状態に形成され、外面側がおむつの表面に向けられて使用される請求項 1 記載の尿取りパッド。

【請求項 4】 外面側に、前記液透過領域を塞ぐ液不透過性の被覆シートが設けられ、この被覆シートは、前記外面側に対し剥離可能に接合されている請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の尿取りパッド。

【請求項 5】 前記被覆シートは、前記外面側に粘着層を介して接着されており、前記被覆シートを除去した後に、外面側に残された前記粘着層が、おむつの表面に粘着してずれ止め層として機能する請求項 4 記載の尿取りパッド。

【請求項 6】 外面側には液不透過性のバックシートが設けられ、このバックシートに前記液透過領域を形成する開口部が設けられている請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の尿取りパッド。

【請求項 7】 前記液透過領域を形成する開口部は、吸収コアが設けられた領域内にて且つ幅方向の中間部分に開口している請求項 6 記載の尿取りパッド。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、老人や病人の介護用などとしておむつの内側に設置されて使用される尿取りパッドに係り、特にパッド自らの吸液機能とおむつの吸液機能とを効果

的に使用できるようにした尿取りパッドに関する。

【0002】

【従来の技術】

図7は従来の尿取りパッド10を使い捨ておむつ1の内側に設置した状態を示す展開平面図である。

図7に示す使い捨ておむつ1は、全体が砂時計形状であり、着用者の腹部に当てられる前面部1Aと、尻部または背部に当てられる背面部1Bと、股間部に当てられる中間部1Cとを有する。

【0003】

図7は使い捨ておむつ1を内側から示しており、この内側には液透過性のトップシート2が、外側には液不透過性のバックシートが設けられて、トップシート2とバックシートとの間に吸収体4が介装されている。この吸収体4は展開形状が砂時計型であり、粉碎パルプまたは粉碎パルプと高吸水性ポリマーなどの混合物で形成されている。

使い捨ておむつ1の中間部1Cでの幅方向両側の縁部では、トップシート2とバックシートとが接合された領域に縦方向に延びる弾性体5、5が設けられ、この弾性体5の収縮力によりレッグギャザー6、6が形成できるようになっている。

【0004】

前記背面部1Bの両側部内面には掛止部7、7、…が設けられている。この使い捨ておむつ1が身体に装着されるときは、ウエスト部分で、前記掛止部7、7、…が、前面部1Aの外面に掛止される。

尿取りパッド10は、内面側に液透過性のトップシート11が、外面側に液不透過性のバックシートが設けられ、トップシート11とバックシートとの間に、粉碎パルプまたは粉碎パルプと高吸水性ポリマーなどの混合物により形成された吸収コア13が介装されている。また尿取りパッド10の幅方向両側の縁部には弾性体が縦方向に取付けられてギャザー14、14が形成される。

【0005】

この尿取りパッド10は、液不透過性のバックシートが、使い捨ておむつ1の

トップシート2に向けられて装着される。通常は、尿取りパッド10のバックシートにずれ止め用の粘着層が設けられ、この粘着層が使い捨ておむつ1のトップシート2に粘着して使い捨ておむつ1内での位置ずれが防止される。

図7に示すように、前記尿取りパッド10は、使い捨ておむつ1の内面に設置された状態で、老人や病人などの尿失禁に対応できるようになる。すなわち少量の尿失禁は、主に尿取りパッド10に吸収されることになるため、尿失禁量に応じて尿取りパッド10を交換することにより、使い捨ておむつ1の頻繁な交換を不要にできる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、前記従来の尿取りパッド10の外面側は液不透過性のバックシートであり、このバックシートが使い捨ておむつ1のトップシート2に向けられているため、尿取りパッド10で尿を吸収しきれなかった場合に、尿が使い捨ておむつ1から洩れ出やすい欠点がある。

すなわち、尿取りパッド10は大人の1回の尿失禁や2回程度の尿失禁に対しては、尿を吸収できる容量を有しているため、尿取りパッド10を頻繁に交換することにより、使い捨ておむつ1へ尿が流れ出ることを防止できる。

【0007】

しかし、例えば夜間などのように長時間着用している状態では、失禁回数が多くなり、その結果、尿は尿取りパッド10の吸収コア13の許容量を超えて、尿取りパッド10から洩れ出る。このとき、尿取りパッド10の外面は液不透過性のバックシートでありこれが使い捨ておむつ1のトップシート2のほぼ中央の領域に直面しているため、尿取りパッド10のバックシートが対面している領域に、尿取りパッド10から洩れ出た尿が与えられず、尿取りパッド10から溢れ出た尿は主に使い捨ておむつ1の中間部1Cの幅方向の両側の領域(i)(i)に流れ出る。この領域(i)(i)では、吸収体4で尿を十分に吸収することができないため、尿は使い捨ておむつ1の側方へ漏れやすくなって、衣類やシーツを汚すことになる。

【0008】

本発明は上記従来課題を解決するものであり、尿が吸収コアの許容量を超えたときに、吸収しきれなかった尿をおむつの吸収体で吸収できるようにして、おむつからの横漏れを防止できるようにした尿取りパッドを提供することを目的としている。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明による尿取りパッドは、内面側に液透過性のトップシートが、内部に前記トップシートを透過した液を吸収する吸収コアが設けられ、外面側には前記吸収コアを通過した液を透過する液透過領域が少なくとも部分的に形成されていることを特徴とするものである。

【0010】

例えば、外面側がおむつの表面に向けられて展開した状態でおむつの内側に設置されて主に女性用として使用される。または、内面側がペニスに向けられた状態でペニスを収納する状態に形成され、外面側がおむつの表面に向けられて男性用として使用される。

【0011】

男性用の場合に、展開された状態で製造され、それをトップシートを内側にし、ペニスを包むようにして使用してもよいが、予めペニスを挿入できるように筒状または三角錘形状に形成されたものであってもよい。

【0012】

この尿取りパッドは、吸収コアを有することにより所定量の尿を吸収できるが、尿が多い場合には、吸収コアにより吸収しきれなかった尿が、尿取りパッドの外面側の液透過領域を通過しておむつの吸収体に吸収される。したがって、尿取りパッドの吸収コアで吸収しきれなかった尿は、おむつ側の吸収体の中間部分で吸収できることになり、従来のように尿がおむつの側部に洩れ出にくくなる。すなわち、実質的にはおむつの吸収体と尿取りパッドの吸収コアとが実質的に重なって機能できるようになり、長時間着用して尿失禁回数が多くなったときに、尿取りパッドの尿吸収容量の不足分をおむつの吸収体で分担できるようになり、多量の排尿に対応できるようになる。しかも、尿は主に尿取りパッドの吸収コアで

吸収されるため、おむつの吸収体へ与えられる尿を少なくでき、おむつの交換回数を減らすことができる。

【0013】

また、外面側に、前記液透過領域を塞ぐ液不透過性の被覆シートが設けられ、この被覆シートは、前記外面側に対し剥離可能に接合されていることが好ましい。

【0014】

このように外面側の液透過領域を塞ぐ被覆シートを設け、この被覆シートを必要なときにのみ剥離できるようにしておくと、例えば昼間のように短時間に尿取りパッドを交換できるときは、前記被覆シートを付けたまま使用し、液透過領域を塞いでおくことにより、おむつ側に尿が浸透するのを防止できる。よって1回または2回程度の尿失禁の度に尿取りパッドを交換することにより、使用しているおむつが汚れるのを防止でき、おむつの交換回数を減らすことができる。また、夜間などのように長時間介護できないときにのみ、被覆シートを剥がして使用することにより、尿取りパッドの吸収コアで吸収しきれなかった尿をおむつの吸収体で吸収できる状態に設定できる。

【0015】

また、前記被覆シートは、前記外面側に粘着層を介して接着されており、前記被覆シートを除去した後に、外面側に残された前記粘着層が、おむつの表面に粘着してずれ止め層として機能することが好ましい。

【0016】

この構成では、被覆シートが、前記液透過領域を塞ぐ役割と、ずれ止め用の粘着層に対する剥型シートとしての役割を果たせるようになる。

【0017】

さらに、外面側には液不透過性のバックシートが設けられ、このバックシートに前記液透過領域を形成する開口部が設けられている構成とすることが可能である。

【0018】

このように、前記液透過領域は液不透過性のバックシートに穴などで開口部を

形成することにより実現できる。あるいは尿取りパッドの両側部のギャザー形成部にのみ液不透液性のバックシートが設けられ、幅方向の中間領域は広い面積にわたって液透過領域であってもよい。また、尿取りパッドの外面側の全面が液透過領域であり、この全面に液不透過性の被覆シート（バックシート）が貼着されているのもよい。

【0019】

ただし、前記液透過領域を形成する開口部は、吸収コアが設けられた領域内で且つ幅方向の中間部分に開口していることが好ましい。

【0020】

外面側において液透過領域が、吸収コアが設けられた領域でその中間部分に形成されていると、尿取りパッドを通過した尿は、おむつの吸収体のほぼ中央部分にて確実に吸収され、おむつからの尿の横洩れを確実に防止できるようになる。

【0021】

【発明の実施の形態】

図1（A）は本発明の尿取りパッドの斜視図、図1（B）はその展開状態を外面側から示した平面図、図2は尿取りパッドの使用状態を示す斜視図である。

図1（A）（B）に示す尿取りパッド20は、例えば図2に示すようにほぼ展開状態（やや湾曲した展開状態）で女性用などとして使用される。あるいは図5に示すようにペニスを包む状態で男性用として使用される。

【0022】

この尿取りパッド20は、内面側が液透過性のトップシート21で、外面側が液不透過性のバックシート22であり、両シート21と22の間に吸収コア23が介装されている。

トップシート21は、疎水性繊維に親水処理したものまたは親水性繊維などで形成されたものであり、例えばポイントボンド、エアスルー、スパンボンド、スパンレースなどの不織布である。またバックシート22は液不透過性で且つ通気性であり、例えばオレフィン系の樹脂シートなどにより形成されている。吸収コア23はその平面形状が長方形または砂時計形状であり、粉碎パルプあるいは

粉碎パルプと高吸水性ポリマーなどの混合物により形成され、粉碎パルプ、あるいは粉碎パルプと高吸水性ポリマーとの混合物がティッシュなどの吸収性シート 23a (図4 参照) で包まれている。

【0023】

吸収コア 23 は、その平面形状が長方形であり、この吸収コア 23 がトップシート 21 とバックシート 22 とで挟まれた状態で、トップシート 21 とバックシート 22 は、吸収コア 23 の外周部分でホットメルト型接着剤などにより互いに接合されている。

吸収コア 23 が設けられていない幅方向の縁部領域において、縦方向（長手方向）に延びる弾性部材 24 が、トップシート 21 とバックシート 22 の間に接着固定されている。この弾性部材 24 は、トップシート 21 とバックシート 22 を平面状に展開した状態で所定の伸び率を有して接合されている。その結果、自由状態では、弾性部材 24、24 が弾性収縮することにより、尿取りパッド 20 の幅方向（X 方向）の両側部で且つ縦方向（Y 方向）の中央領域において、トップシート 21 およびバックシート 22 が波状に収縮させられてギャザー 25、25 が形成される。

【0024】

図 1（B）は尿取りパッド 20 を外面側から示しており、図の紙面手前側にはバックシート 22 が現れているが、このバックシート 22 には開口部 22a、22a が形成され、この開口部 22a、22a には、吸収コア 23 の外周部分の前記ティッシュなどの吸収性シート 23a が現れ、液透過領域（a）（a）となっている。この実施の形態では、前記開口部 22a、22a（液透過領域（a）（a））が縦長穴であり、吸収コア 23 が設けられた領域において幅方向（X 方向）の中間でほぼ中央の領域で且つ縦方向へ、互いに平行に延びて開口している。

また、バックシート 22 の表面において、前記開口部 22a、22a が開口している部分の外周部の領域、および開口部 22a と 22a とで挟まれた領域には、粘着層 26 が形成されている。バックシート 22 の外側には、被覆シート 27 が前記粘着層 26 を介して接着されており、この被覆シート 27 により前記開口

部 22a, 22a (液透過領域 (a) (a)) が塞がれている。

【0025】

被覆シート 27 は、バックシート 22 と同等に液不透過性で且つ通気性で、例えばオレフィン系の樹脂シートなどにより形成されている。前記粘着層 26 は、ゴム系エラストマーやアクリル樹脂系などであり、被覆シート 27 は、バックシート 22 に対して剥離自在であり、且つ被覆シート 27 を剥がした後も、粘着層 26 が所定の粘着力を発揮し、おむつの内面側に設置したときに前記粘着層 26 がおむつの内面側に粘着されて、前記粘着層 26 がずれ止め層として機能できるようになっている。

前記被覆シート 27 の縦方向の先端部分には、摘まり部 27a が突出形成されており、この摘まり部 27a はバックシート 22 に接着されていない。

【0026】

図 2 は、大人の介護用の使い捨ておむつ 1 に前記尿取りパッド 20 が重ねられて使用される状態を示す斜視図、図 3 は使い捨ておむつ 1 に尿取りパッド 20 が重ねられた状態を、装着者の肌に向けられる内面側から見た展開平面図である。また図 4 は、前記使い捨ておむつ 1 に尿取りパッド 20 が重ねられた状態を示す図 3 の I V - I V 線の断面図である。

使い捨ておむつ 1 は、全体が砂時計形状であり、着用者の腹部に当てられる前面部 1A と、尻部または背部に当てられる背面部 1B と、股間部に当てられる中間部 1C とを有する。

【0027】

使い捨ておむつ 1 の内面側には液透過性のトップシート 2 が、外側には液不透過性のバックシート 3 が設けられて、トップシート 2 とバックシートとの間に吸収体 4 が介装されている。この吸収体 4 は展開形状が砂時計形状であり、粉碎パルプまたは粉碎パルプと高吸水性ポリマーなどの混合物がティッシュなどの吸収性シートで囲まれて形成されている。

使い捨ておむつ 1 の中間部 1C での幅方向両側の縁部では、トップシート 2 とバックシートとが接合された領域に縦方向に延びる弾性体 5、5 が設けられ、この弾性体 5 の収縮力によりレッグギャザー 6、6 が形成できるようになっている。

【0028】

前記背面部 1 B の両側部内面には掛止部 7, 7 が設けられ、前面部 1 A の外側の面には掛止シート 8, 8 が取付けられている。この使い捨ておむつ 1 が身体に装着されるときは、ウエスト部分で、前記掛止部 7, 7, … が掛止シート 8, 8 に掛止される。

なお、図 2 と図 3 は使い捨ておむつ 1 として展開型（オープン型）を示しているが、本発明の尿取りパッド 20 は、前面部 1 A の両側の縁部と背面部 1 B の両側の縁部とが接合されたいわゆるパンツ型おむつの内側に重ねて使用することもできる。

【0029】

次に前記尿取りパッド 20 の使用方法を説明する。

例えば、昼間のように頻繁に介護できる状態のときには、尿取りパッド 20 は、被覆シート 27 を剥がすことなくそのまま使用することができる。この場合、図 1 (B) に示すように尿取りパッド 20 の外面側では、バックシート 22 に開口した開口部 22 a、22 a が被覆シート 27 で覆われ、また開口部 22 a、22 a の外周部に設けられた粘着層 26 により被覆シート 27 が止められているため、開口部 22 a、22 a（液透過領域（a）（a））は完全に塞がれており、この開口部 22 a、22 a から外側に尿がもれなくなっている。

【0030】

このように、バックシート 22 に被覆シート 27 が取付けられた状態で、バックシート 22 が使い捨ておむつ 1 側に向けられた状態で、尿取りパッド 20 が使い捨ておむつ 1 のトップシート 2 に設置される。このときに尿取りパッド 20 の位置ずれを防止するために、前記バックシート 22 の表面または被覆シート 27 の表面に粘着層を設け、この粘着層を使い捨ておむつ 1 のトップシート 2 の表面に粘着させてもよい。

被覆シート 27 を取付けた状態の尿取りパッド 20 は、従来の尿取りパッドと同様に機能し、尿の吸収量は吸収コア 23 の吸収容量により決められる。例えば吸収コア 23 の尿吸収能力が 300 cc の場合、1 回の尿失禁量が 150 cc 程

度であれば、1回の尿失禁または2回の尿失禁に対しては、尿取りパッド20から外部への尿の洩れはあまり生じない。よって、尿失禁の度に尿取りパッド20を交換すると、使い捨ておむつ1の吸収体4にはほとんど尿が与えられず、使い捨ておむつ1の汚れがほとんどなく、そのまま継続して使用することができる。

【0031】

次に、夜間または介護者が外出するときのように、頻繁な介護が不可能なときには、図4に示すように、尿取りパッド20の外面側の被覆シート27を剥がして使用する。図1(B)に示すように被覆シート27には摘まり部27aが設けられているので、この摘まり部27aを掴んで引き剥がすことにより被覆シート27を容易に剥離させることができる。被覆シート27を剥がすと、バックシート22には粘着層26が残るが、この粘着層26は使い捨ておむつ1のトップシート2の表面に粘着してずれ止め層として機能する。

被覆シート27を除去すると、バックシート22に形成された開口部22a、22a（液透過領域（a）（a））が開口し、この開口部22a、22aには、ティッシュなどの吸収性シート23aで囲まれた吸収コア23が露出し、この吸収コア23が、開口部22a、22aを介して使い捨ておむつ1のトップシート2に対面する。

【0032】

例えば、1回の失禁による尿の量が150ccとすると、この尿は尿取りパッド20の吸収コア23で吸収されるが、その一部が開口部22a、22aから洩れ出て使い捨ておむつ1の吸収体4に吸収される。このとき、例えば尿取りパッド20の吸収コア23に100ccが吸収され、残りの50ccは開口部22a、22aから洩れ出ておむつ1の吸収体4で吸収される。このとき、尿は吸収体4のほぼ中央部分に吸収されるため、尿は吸収体4の内部に吸収されて分散し、おむつ1の両側部のギャザー6、6方向へ洩れ出ることがない。

例えば3回の失禁があった場合、尿の全体量は450cc程度になるが、このとき、尿取りパッド20の吸収コア23では尿を300cc吸収し、その吸収能力を超えた残りの150ccはおむつ1の吸収体4に吸収される。さらに失禁が

あった場合にも尿をおむつ1の吸収体4に導くことが可能である。

【0033】

おむつ1の吸収体4の吸収能力は、尿取りパッド20の吸収コア23の吸収能力よりも十分に高いため、実質的には、吸収コア23と吸収体4との双方での吸収能力を効果的に発揮することが可能になり、全体での尿の吸収容量を高くでき、おむつ1の両側部への尿の洩れを完全に防止できるようになる。

また、2回または3回程度の失禁があると、尿取りパッド20の吸収コア23は尿でほぼ飽和状態になるが、この状態で尿取りパッド20を交換すると、おむつ1の吸収体4で吸収された尿の量はさほど多くないため、使い捨ておむつ1は未だ継続して使用することが可能である。

【0034】

また、図4において破線で示しているように、本発明の尿取りパッド20を、被覆シート27を剥がした状態で、おむつ1の内側に2枚以上重ねて設置することができる。この場合、尿は2枚以上の尿取りパッド20の吸収コア23のそれぞれで吸収されることになり、尿の吸収量をさらに高くし、多数回の尿失禁があっても、使い捨ておむつ1の汚れを最小限にできる。

【0035】

図2ないし図4では、尿取りパッド20が展開された状態で使い捨ておむつ1に重ねられて使用され、主に女性用として対応する場合を示しているが、この尿取りパッド20を男性用として使用することも可能である。

この場合には、図5に示すように、尿取りパッド20を、トップシート21を内面側として、縦方向(Y方向)の両端側からほぼ円錐形状となるように丸め、開放部から円錐状のパッド内部にペニスを挿入する。このとき、図5に示すように、尿取りパッド20の縦方向の一方の端部の外面と他方の端部の内面とを両面粘着テープなどの粘着層28により接合することが可能である。

【0036】

男性用の場合も、頻繁な介護が可能なときには、被覆シート27で開口部22a, 22a(液透過領域(a)(a))を塞いだ状態で、図5に示す状態でペニスを挿入し、使い捨ておむつ1の内面に設置する。

また夜間などのように頻繁な介護ができないときには、被覆シート 27 を剥がし、バックシート 22 に開口部 22 a, 22 a を開口させる。このとき、ペニスが挿入された状態で、開口部 22 a, 22 a が使い捨ておむつ 1 のトップシート 2 に対面する向きで尿取りパッド 20 を使用する。その結果、図 4 に示したのと同様に、尿取りパッド 20 の吸収コア 23 で吸収しきれなかつた尿が開口部 22 a, 22 a から使い捨ておむつ 1 の吸収体 4 に吸収され、多数回の尿失禁に対応できるようになる。

なお、男性用の場合、予めほぼ円錐状または筒状に形成された尿取りパッドを用い、この尿取りパッドの外側面に液透過領域を形成してもよい。

【0037】

図 6 (A) (B) は本発明の尿取りパッドの他の構成例を示している。

図 6 (A) に示す尿取りパッド 20 A では、外面側のバックシート 22 の幅方向 (X 方向) の中間のほぼ中央領域で、且つ縦方向 (Y 方向) のほぼ中央領域において、開口部としての複数の丸穴 (または楕円穴などでも可) 22 b が開口して、液透過領域が形成されている。また、この丸穴 22 b が形成されている部分に液不透過性の被覆シート 27 が剥離可能に設置されて、丸穴 22 b が塞がれている。

【0038】

図 1 (B) および図 6 (A) に示すように、液透過領域を構成するバックシートの開口部は、吸収コア 23 が設けられた領域で且つ幅方向の中央部分または幅方向の中間部分に形成されていることが好ましい。開口部が幅方向の中央部分または中間部分に開口していると、この開口部から洩れ出た尿が使い捨ておむつ 1 の吸収体 4 の中央部または中間部に与えられることになり、吸収体 4 により尿を吸収しやすくなり、おむつ 1 の幅方向両側に尿が洩れ出にくくなる。

図 6 (B) に示す尿取りパッド 20 B では、バックシート 22 に開口する開口部 22 c が縦方向 (Y 方向) に長く延びて、吸収コア 23 が設けられた領域において、吸収コア 23 とほぼ同じ面積で開口している。またこの開口部 22 c を覆う被覆シート 27 は、幅方向の中央部分で且つ縦方向の全域に延びる長さで形成され、粘着層を介してバックシート 22 に取付けられている。

【0039】

あるいは図6（B）において、開口部22cが縦方向（Y方向）の全長にわたって延び、すなわち裏面側では幅方向（X方向）の左右両側部にのみバックシート22、22が設けられ、幅方向の中間部分の全域が液透過領域であってもよい。この場合、被覆シート27は、縦方向の寸法が尿取りパッド20Bの全長とほぼ同じであり、被覆シート27の幅方向の両側部のみがバックシート22、22に接合されたものとなる。

このように構成すると、バックシート22、22に開口部を穿孔する工程を無くすことができ、細長のバックシートを尿取りパッド20Bの幅方向の両側部に取付ければよいから、製造工程を簡単にできる。

【0040】

また、前記のように尿取りパッドの外面側で、バックシート22と被覆シート27を別々に設けず、バックシート22全体をパッドから剥離自在とし、バックシート22を除去したときに、パッドの外面側全域が液透過領域となる構造であってもよい。

【0041】

【発明の効果】

以上のように本発明では、尿取りパッドの吸収コアで吸収しきれなかった量を、おむつの吸収体に効果的に吸収させることができ、おむつの両側部への尿の洩れが生じるのを防止できる。

【0042】

また外面側の液透過領域を塞ぐ被覆シートを剥離自在に設けると、この被覆シートが取付けられた状態で通常の尿取りパッドと同等に使用することも可能であり、介護などの状態に合わせてその使用状態を自由に選択できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

（A）は本発明の尿取りパッドの斜視図、（B）は外面側から見た展開平面図、

【図2】

本発明の尿取りパッドを使い捨ておむつに装着する状態を示す斜視図、

【図 3】

本発明の尿取りパッドを使い捨ておむつに装着した状態を示す展開平面図、

【図 4】

図 3 の I V - I V 線の断面図、

【図 5】

本発明の尿取りパッドを男性用として使用する場合の斜視図、

【図 6】

(A) (B) は本発明の尿取りパッドの他の構成例を示す斜視図、

【図 7】

従来の尿取りパッドが使い捨ておむつに装着された状態を示す展開平面図、

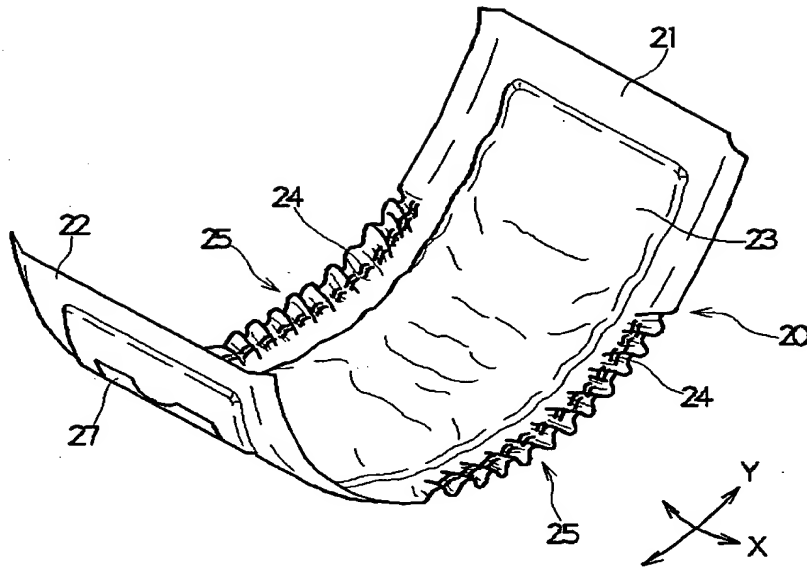
【符号の説明】

- 1 使い捨ておむつ
- 2 トップシート
- 3 バックシート
- 4 吸収体
- 20, 20A, 20B 尿取りパッド
- 21 トップシート
- 22 バックシート
- 22a, 22b, 22c 開口部
- 23 吸収コア
- 26 粘着層
- 27 剥離シート

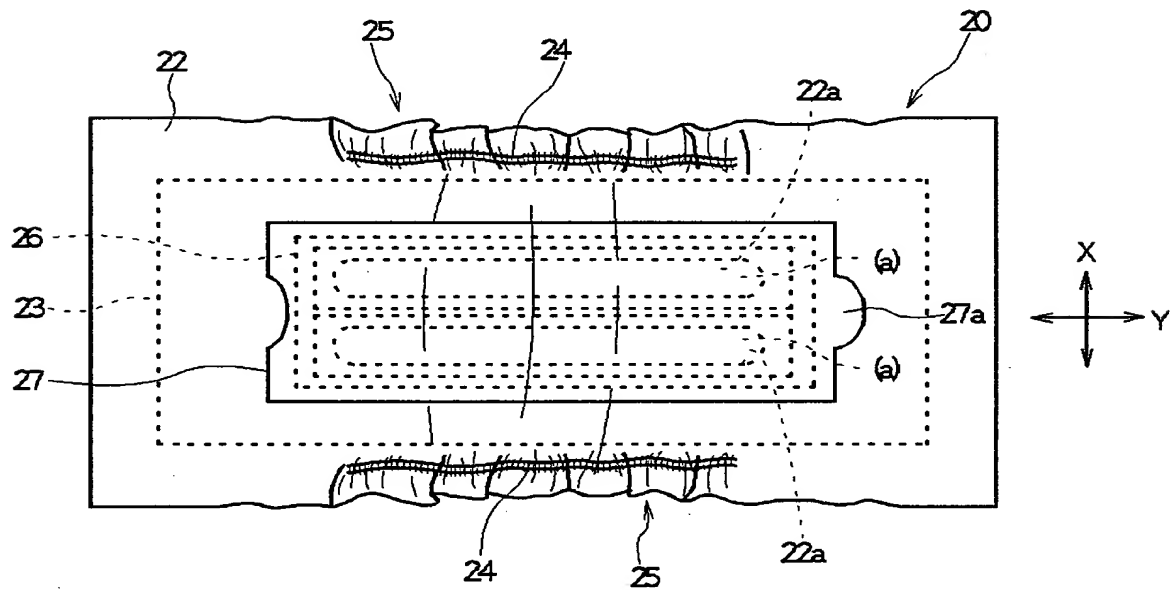
【書類名】 図面

【図 1】

図 1
(A)

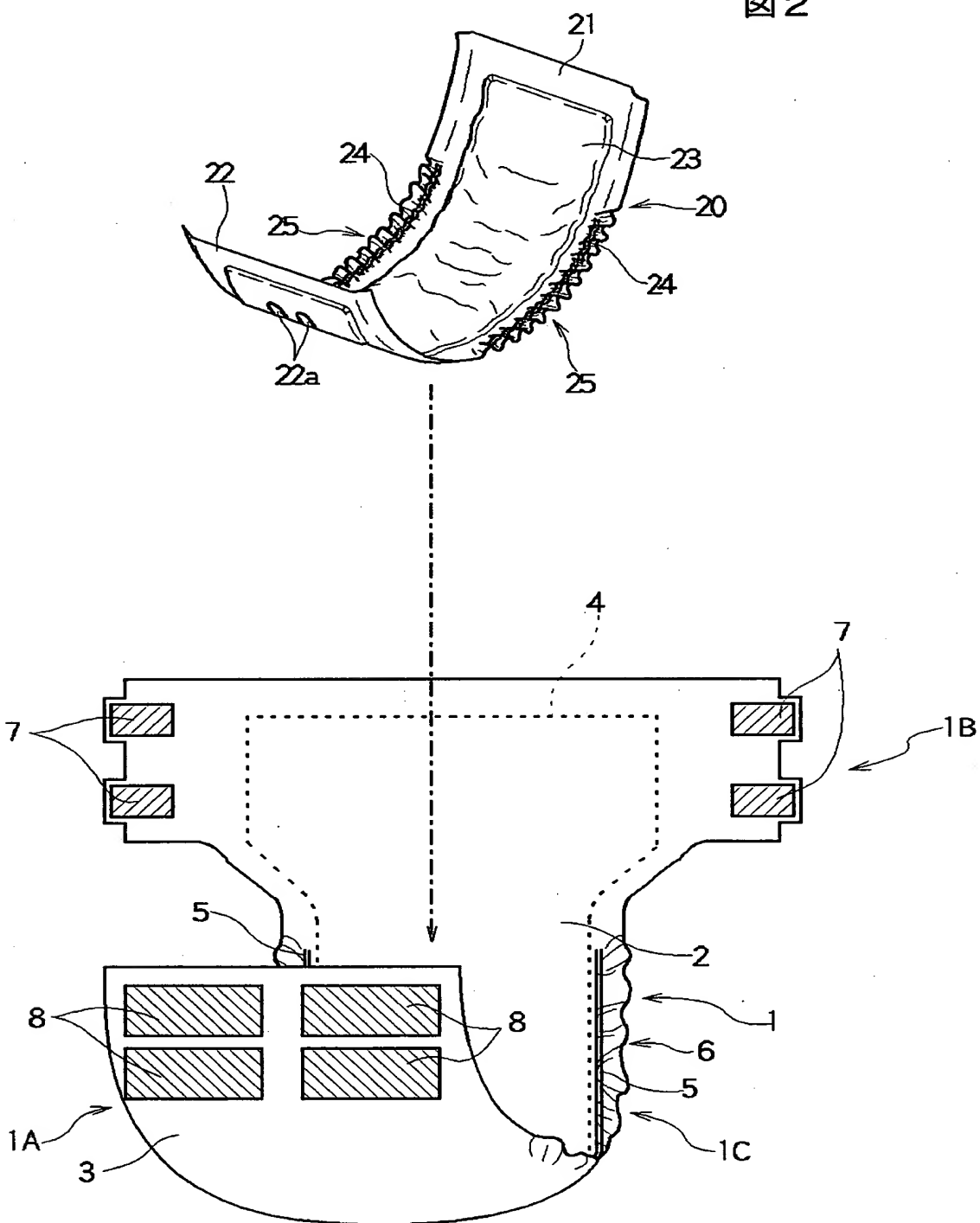


(B)



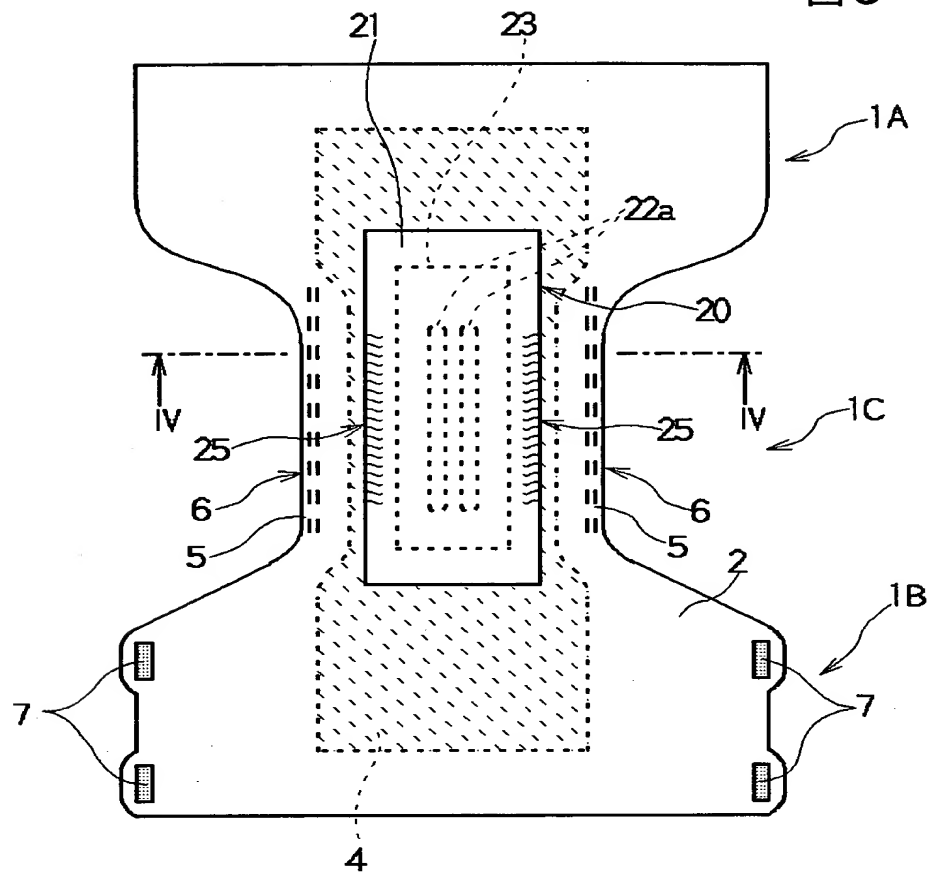
【図 2】

図 2



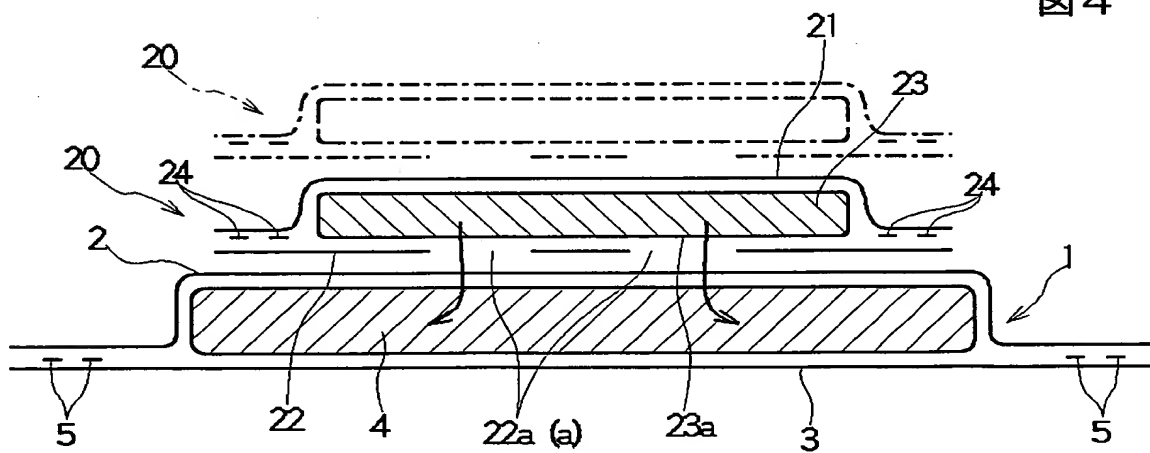
【図3】

図3

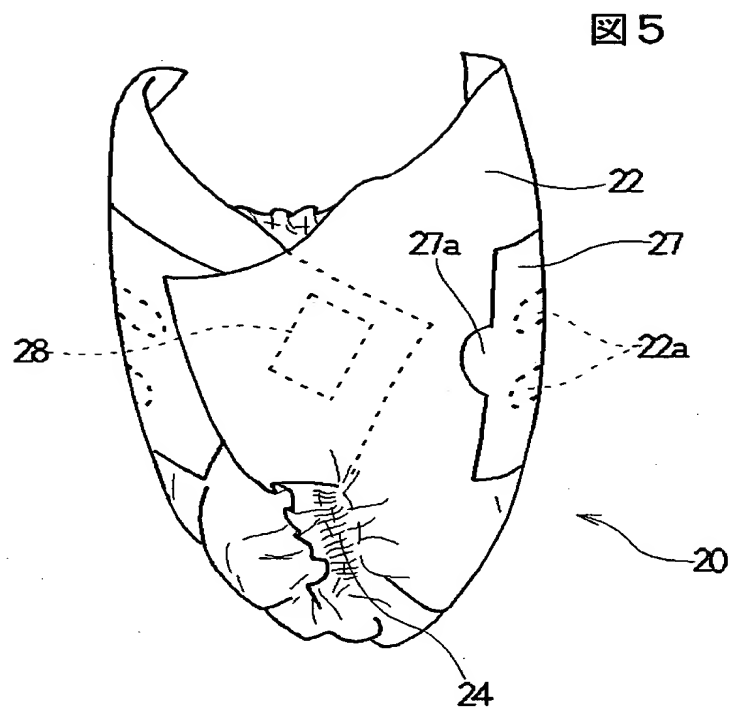


【図4】

図4

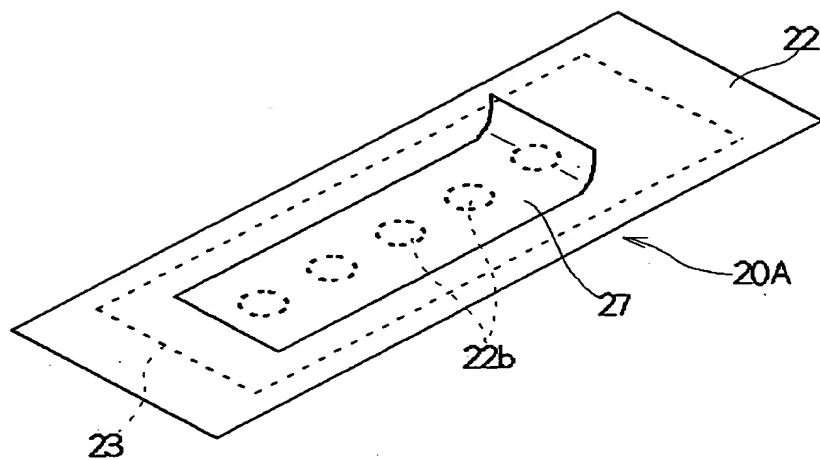


【図5】

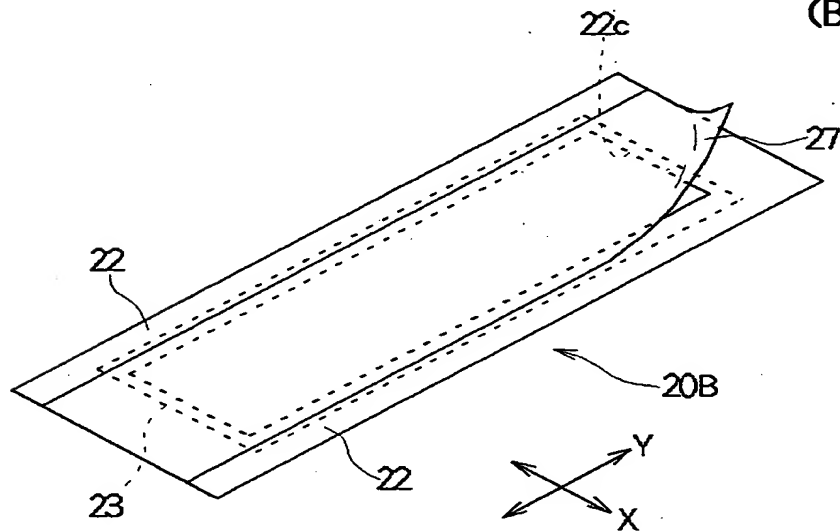


【図6】

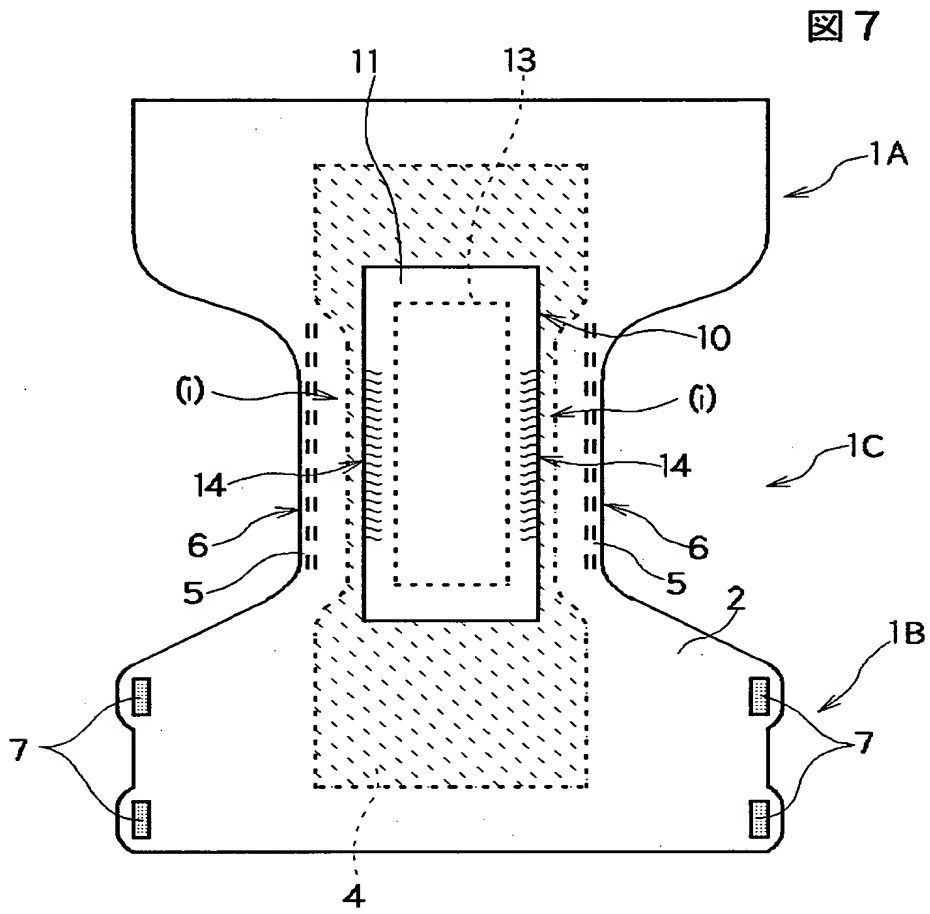
図6
(A)



(B)



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 おむつの内面に設置される尿取りパッドは、尿の吸収量に限界があるため、尿取りパッドで吸収しきれなかった尿が、おむつの幅方向の両側へ洩れ出やすかった。

【解決手段】 尿取りパッド20の不透液性のバックシート22に開口部22aを形成し、通常はこの開口部22aを被覆シートで塞いでおく。被覆シートで塞いだ状態でおむつ1に設置すると、1回または2回程度の尿失禁に対応できる。夜間などでは被覆シートを剥がし、開口部22aを開口させた状態でおむつ1に設置する。このとき、尿取りパッド20の吸収コア23で吸収しきれなかった尿は開口部22aからおむつ1の吸収体4へ与えられて吸収される。したがって尿失禁回数が多い場合でも、おむつの側方へ尿が洩れるのを防止できる。

【選択図】 図4

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】
【識別番号】 000115108
【住所又は居所】 愛媛県川之江市金生町下分 182 番地
【氏名又は名称】 ユニ・チャーム株式会社
【代理人】 申請人
【識別番号】 100085453
【住所又は居所】 東京都新宿区大久保 1 丁目 14 番 15 号 三辰ビル
3 F 野▲崎▼内外国特許事務所
【氏名又は名称】 野▲崎▼ 照夫

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000115108]

1. 変更年月日	1990年 8月24日
[変更理由]	新規登録
住 所	愛媛県川之江市金生町下分182番地
氏 名	ユニ・チャーム株式会社